

薬草園だより

令和4年3月 春号 No.91

冷たい空気に真っ青な空。今年はまだまだ寒い日が続いていますが、蕾を膨らませ開花の準備をする樹木や落ち葉の隙間から芽を出す植物を目にすると、春が確実に近づいていることを実感できます。今回は春の訪れを教えてくれる「蠟梅」「梅」「桜」「桃」に触れていきたいと思います。

ロウバイ (ロウバイ科)

Chimonanthus praecox L.

漢名：腊梅花 (サクバイカ)

部位：蕾

生薬名：ロウバイ (蠟梅)

成分：calycanthine

薬効：消炎、解毒、活血

用途：腊梅油



初詣などで訪れる神社やお寺でよく見かける黄色い花を咲かせる迎春花の蠟梅です。花弁が蜜蝋のように半透明で、臘月 ロウゲツ (旧暦の12月) に花を咲かせる。梅と同じ時期に枝に直接花をつける様子が梅に似ている。などのことから蠟梅と名付けられたようです。梅という字が使われているのですが、梅とは姿が似ているだけで全く違う科の樹木です。雪の中に咲く蠟梅を見た事がありますが、辺りが真っ白な中、スッと背筋を伸ばし凛とした姿がとても美しく感動的です。

春のお花見といえば、今では外国の方も日本に桜の観光に来るほど「桜」が主流ですが、古くは「梅」を鑑賞しながら貴族が歌詠みの会をしたのが始まりで、その後日本古来の桜を愛でる会になり。貴族から武士にそして庶民に広がっていったと言われています。また、桜の木には田の神が宿っているといわれ、農民たちは開花に合わせ農作をはじめたり、花の様子で豊作、凶作を占ったり、桜の木の下に豊作を祈りお供え物をしたりなど、その起源には諸説あります。武将たちが桜を植え名所をつくり春を楽しみ、戦争で焼けたところに復興を願い桜を植えたなど、それぞれの時の流れの中で桜をとっても大切にしてきたことがわかります。そろそろ桜の開花宣言が聞こえてきそうです。

ウメ (バラ科)

Prunus mume Sieb. et Zucc.

漢名：烏梅 (ウバイ)

部位：未成熟の乾燥果肉

生薬名：烏梅肉 (ウバイニク)

成分：prunose I

薬効：鎮咳去痰、消炎

用途：(漢) 烏梅丸



一月に開花します。日本の伝統的食材として古くから身近なものです。梅はなるべく遠くに種を運んでもらおうと、未熟な時は渋く毒性を持ち、他に食べられないようにします。一方、完熟したら甘く熟し、種を遠くへ運んでもらうことで子孫を増やす戦略を持っています。

サクラ (バラ科)

Cerasus × yedoensis (Matsum) A.V.Vassil.

漢名：桜
部位：樹皮
生薬名：桜皮 (オウヒ)
成分：sakuranetin
薬効：消炎、排膿
用途：(漢) 十味敗毒湯



「桜切る馬鹿、梅切らぬ馬鹿」

勝手に桜の木は切ってはいけないといひます。桜は切るとそこから腐って枯れる心配があるからです。一方、梅の木は枝ぶりを整えるため脇枝を切ることで樹勢が活気つきます。

「明日来たら、ぶてと桜の皮をなめ」

と川柳にあるように、古い鰹を食わされて下痢をしたときの特效薬として江戸庶民に広く使われていた、食あたりの特效薬だったそうです。

Jリーグのセレッソ大阪

チーム名の「セレッソ(Cerezo)」はスペイン語で「桜」を意味します。

桜は大阪の「市花」であると同時に世界中に知られる日本を代表する花です。大阪市を拠点に日本を代表するチームになるという願いが込められているそうです。

染井吉野、大島桜、河津桜、緋寒桜などあります。まさに日本の心の花です。

モモ (バラ科)

Prunus persica L.

漢名：桃
部位：種子
生薬名：桃仁 (トウニン)
成分：amygdalin
薬効：活血、去痰
用途：(漢) 桃核承気湯



『日本書紀』

亡くなった妹の伊邪那美命を黄泉の国から連れ戻そうとした伊邪那岐命が、願い果たせず逃げ帰る場面で、追いかけてくる雷神たちに向かって最後に投げつけたのがモモの実3つ。

お陰で逃げおおせ、桃に感謝するくだりがあります。

桃太郎誕生

桃の実をパカッと開いた真中の種の中からバンザイをした裸の桃太郎が立っていた話や、モモの実を食べた婆が若返って身ごもり、桃太郎を産む(??)という異説もあります。

「梅桜桃李」という仏法用語があります(李=スモモ)。

皆似たような花が咲かせますが、それぞれ咲く時期や形や香りも違います。しかしどの花も、寒い冬を乗り越え、春に一気に開花する姿は美しく素晴らしいです。人も皆それぞれのペースで、人と比べることなく自分らしく成長できたらいいという意味が込められているそうです。